

アロマボランティア活動報告 …アロマ隊によるボランティア活動事例…

〇〇 元気をおくるアロマ隊 共同代表の活動 〇〇

活動団体名	手当ての輪
代表者 (居住地 / 職業)	斉藤 京子 (埼玉県 / アロマセラピスト・アロマテラピーサロン「MOANI」主宰)
主な活動場所・エリア	2011年3月～ 埼玉県内の避難所 2011年7月～ 福島県内の避難所 2011年9月～ 福島県内の仮設住宅
活動時期	2011年3月20日～ 継続中
主な活動内容 / 対象者	被災者への施術ボランティア活動
アロマボランティアに参加したのべ人数	約 150 名
アロマボランティアを受けたのべ人数	約 3100 名
主な連携・協力先	手当ての輪応援ブログ 気仙沼大島の椿を育てる会 がんばっぺ広野町！米ぬかホットパックプロジェクト アクリルたわし「I AM♡愛 編むプロジェクト」
URL など	http://ameblo.jp/kyoko563285/ http://ameblo.jp/teatenowa/ http://profile.ameba.jp/tawashiakuriru http://ameblo.jp/hironomachihukkoushien/

■ 活動のきっかけ：

2011年3月17日地元埼玉の三郷市瑞沼市民センターに300の方が原発から避難していることを知ったため。体育館に入り、まずは冷たい床で過ごしていた避難者の体に触れ、マッサージをさせていただきました。ブログで仲間を募って毎週通うようになったことがきっかけとなりました。

■ 活動の方針/工夫など：

技術や経験にこだわらず、奉仕する気持ちのある人が誰でも参加できるようにしました。

集合時間以外、帰りの時刻は決めず帰りは自由にし負担のないようにしました。

被災地に行くようになってからは、車を数台出して集合時間・場所を決め、相乗りすることで高速道路など金銭的な負担のないようにしています。

■ これからの活動目標や予定など：

マッサージをするだけでなく、ふれあいの中で被災地のニーズを知り風化させないような自立支援の形を繋いでいくことが必要だと思います。

またアクリルタワシつくりやホットパックは仮設住宅での孤立や引きこもりを予防しただけではなく、原発や津波で農業を失い、就業に厳しい農家の女性たちの貴重な収入源として大きな希望に繋がっています。

■ 写真



埼玉の避難所体育館



仮設住宅集会所にて



気仙沼アクリルたわしを編む人



福島県広野町米ぬかホットバックをつくる人



広野町の方々と撮影



米ぬかホットバック



アクリルたわし（広野町/気仙沼市）

〇〇 元気をよくするアロマ隊 共同代表の活動 〇〇

活動団体名	南相馬福香隊 (仮)
代表者 (居住地 / 職業)	樋渡 志のぶ (東京都 / アロマセラピスト・アロマセラピーサロン「クブクブ」主宰)
主な活動場所・エリア	福島県南相馬市など
活動時期	2011年3月末～ 継続中
主な活動内容 / 対象者	南相馬、仙台、気仙沼にて、アロマセラピー施術、アロマセラピー講習会、フラワーエッセンスを提供。南相馬では、医療従事者の疲労回復支援の目的で2011年7月より活動開始。
アロマボランティアに参加したのべ人数	約 30 名
アロマボランティアを受けたのべ人数	約 150 名
主な連携・協力先	カリス成城、有限会社マイキ、NPO 法人フラワーエッセンス普及協会、日赤アロマセラピー研究会、日本クラシカルホメオパシー協会、バッチの花療法、株式会社シャンブル、つくくみ、メイスガーデンスパ、株式会社椿、株式会社グッドホープ総研、Naturalis、アロマセラピー教室ヤスミン、村野鍼灸院(郡山)、いまココ衣、南相馬市ふるさと回帰支援センター、香り宅配プロジェクト、クブクブ
URL など	http://homepage3.nifty.com/kupukupu/ http://www.facebook.com/#!/kaori.takuhai

■ 活動詳細

<2011年>

- 4/2 福島県伊達市梁川高校への支援物資協力
- 4/9 福島県南相馬市に支援物資搬送
- 4/10 伊達市梁川高校体育館にて避難者へのアロマセラピー施術
- 5/22～23 福島県伊達市梁川体育館にて避難者へのアロマセラピーの施術、フラワーエッセンス提供
- 5/25～26 宮城県気仙沼大島休暇村にて避難者へのアロマセラピーの施術
- 6/7 南相馬市鹿島区農家のお話会企画(東京)
- 6/11 東鳴子温泉被災者へのアロマセラピーハンドトリートメントレクチャー(読売新聞企画)
- 6/12 仙台にて南相馬市からの被災者のアロマセラピー施術
- 7/22～25 南相馬市被災者へのアロマセラピー施術、フラワーエッセンス提供
- 8/27 仙台被災者へのアロマセラピー
- 11/4～6 南相馬市医療従事者へアロマセラピー施術、フラワーエッセンス提供
- 11月末 大腿骨骨折の為、活動休止

<2012年>

- 4月末 南相馬医療従事者へアロマセラピー施術、フラワーエッセンス提供
南相馬市にてアロマセラピー講習会開催
- 5/12 アースディ in 調布 気仙沼大島椿オイル販売

■ 活動のきっかけ:

インターネットを通じて、南相馬の避難者より直接、支援物資の依頼があり、支援物資を届けたことを機に、可能な範囲で、アロマセラピーや自然療法を提供している。

■ 活動の方針/工夫など：

現場を直接訪れ、現地の声を知り、現地の方々と相談しながら取り組んでいくことを活動の方針にしています。また、すぐに役立つ有益な情報を得るため、菜の花プロジェクト、有機循環農業法、原子力資料研究室、EM菌やチェルノブイリの架け橋など、自然療法以外にも被災地復興に取り組んでいる現場の方々の勉強会に、出来る限り参加し、自ら試している。その他、日赤医療センター（広尾）で、10年以上ボランティア活動を続けている日赤アロマテラピー研究会（地下鉄サリンの被害者の方々へのアロマテラピーの施術を提供している）との交流や、全く違う分野のボランティアの方々との情報交換も積極的に行い、現地のニーズやボランティア活動について学ぶようにしている。

■ 活動方針の変化：

震災後、1か月後に現地を視察した時は、支援物資やガソリンなど物質的な支援が必要な場所では、自然療法はそれほど求められていなかった。5月に訪れたときには、少し混乱が落ち着いていたため、アロマテラピー、フラワーエッセンスともに、とても喜んでくれた。また、原発に近い南相馬の復興は遅く、仙台や気仙沼との違いを目の当たりにした。

被災地の取組や復興状況を直接知るには、定期的に現場を訪れることは必然。様々なボランティア活動の方々と交流は刺激になった。ただ、被災者の方の中には様々な意見があること、ボランティア活動が、被災地で再開した同業者の営業を妨げている可能性もあると知り、行く度に、ボランティア活動の意味を考える機会が多かった。個人的には、今の私の立場や経済力で、ずっとボランティアで続けることは難しいと感じている。

2012年4月に、5度目となる南相馬を訪れた際には、「私たちは食糧でも惨めでもありません。一過性の一方的な支援よりも、細く長く、311を忘れないで寄り添ってくれる支援が必要です。今私たち被災地に必要なのは、私たちが自信を持って働ける動機や機会を促してくれる支援が必要なのです」という言葉に共感した。私たちが訪れるだけでなく、現地で、アロマテラピーや自然療法を受けられるよう、協力していきたい。

■ これからの活動目標や予定など：

- (1) アロマテラピーが各々のコミュニティで、交流を深める一つのツールとして誰もが気軽に用いることができるよう、興味を持つ方々と情報を共有していく
- (2) 被災地の植物を使った国産キャリアオイルや精油を、アロマテラピーの業界でもスタンダードとなるよう積極的に利用し、日本古来の自然循環農法の復興に貢献する
- (3) 被災地の国産アロマテラピーの商品を世界に発信し、海外にも復興の協力をいただく
- (4) 災害があったとき、体と心のサポートに、アロマテラピーをはじめとする自然療法が心身のケア、自律した自己と地域の確立にいかに関与するかを一人でも多くの方と共有し、後世に活かせるよう当たり前のケアにする

上記目標を達成するために、アロマテラピーやフラワーエッセンスなどの自然療法を一日一人に直接伝えていく

■ 写真



2011.4.9 南相馬に支援物資提供



2011.5 梁川にて被災者と



2011.5 気仙沼休暇村にて被災者と



2011.4.10 梁川避難所にて施術提供



2011.7 南相馬避難所にて



2011.11 南相馬にて医療従事者と



2012.4 福島医療従事者&南相馬市長



高線量



2011.5
南相馬市鹿島区の
農家民宿にて



2012.4
南相馬にて



支援物資 (Dr.Hauschka)



支援物資 (フラワーエッセンス)



南相馬での講習会の様子



支援物資 (カリス成城)

〇〇 元気をよくするアロマ隊 共同代表の活動 〇〇

活動団体名	絆プロジェクト
代表者 (居住地 / 職業)	矢田 薫 (東京都 / アロマセラピスト・アロマセラピーサロン「Engel Liebe」主宰)
主な活動場所・エリア	2011年7月 宮城県石巻市内小学校 2011年8月 河口湖の避難所 2011年9月 福島県内の避難所 2011年9月/2012年3月 東京都で活動報告会
活動時期	2011年7月～ 継続中
主な活動内容 / 対象者	「東日本大震災で被災した子どもたちの未来に、夢と希望を抱ける環境づくり」を理念に支援活動するボランティア団体【絆プロジェクト】の活動の中で、避難している親子と震災後から継続してボランティア活動している方に「アロマセラピー」を提供しました。
アロマボランティアに参加したのべ人数	約 10 名
アロマボランティアを受けたのべ人数	約 35 名
主な連携・協力先	絆プロジェクト
URL など	http://engel-liebe.com

■ 活動のきっかけ

日頃「親子アロマセラピー」の活動をしているので、被災地ボランティアにおいても親子ケアをしてあげたいと思っていた所【絆プロジェクト】を twitter で知りました。まずは、河口湖でのキャンプボランティアに参加する事になったので、絆プロジェクトの永野代表にご提案し、代表を通じて現地スタッフの承諾を得て、子ども達とアロマスプレーを作るメニューをキャンプでの生活の中に入れて頂きました。

■ 活動の方針/工夫など

継続的に同じ場所に訪問することが、(私の)現状では難しいので、アロマトリートメントの癒しだけでなく、セルフケアやお互いのケアができるような活動を心掛けています。また【絆プロジェクト】では保育・エンターテイメントなど色々な方とのコラボができるので、皆が楽しく元気になるプログラムを届けつつ、ボランティアやスタッフも癒していけたらと思います。

■ これからの活動目標や予定など

【絆プロジェクト】は、震災の年に生まれた子ども達が18歳になる2030年まで子ども達の支援活動を続ける団体です。

歌や劇などのエンターテイメント・心のケア・イベント担当など各専門家がいる中、私はアロマセラピストとして被災地での活動以外にも、東京などでの活動の場でアロマケアを伝えたり、メンバーとコラボをして行く予定です。

具体的には

1. 宮城県石巻市内の小学校の授業カリキュラムに決定された「絆プロジェクト心のケアエクササイズ」に参加。
2. 2030年までの活動は、日々状況が変化していくと共に、若手のボランティア参加者も必要。先日ボランティア研修に参加した息子をきっかけに、若者が肉体労働でないボランティアの活動ができる場やシステム(流れ)を作る。
3. 【絆プロジェクト】の中でのアロマコラボ。
4. 報告会などで、アロマセラピー(特に国産アロマ)の普及活動。

■ 写真

<河口湖 8月>

子どもたちとのアロマスプレー作りの様子。【絆プロジェクト】ボランティアスタッフ（赤いTシャツ）も参加。自由研究にアロマスプレー作りをまとめた子どももいました。



<会津若松 9月>

保育士さんとのコラボレーション。子ども達を保育士さんが同室で見守る中、ハンドトリートメントの指導を実施。



〇〇 元気をよくするアロマ隊 共同代表の活動 〇〇

代表者 (居住地 / 職業)	川島 尚子 (東京都 / アロマセラピスト・アロマセラピーサロン「パチュリ」主宰)
主な活動場所・エリア	福島県、岩手県、宮城県、岐阜県への支援物資協力と施術ボランティア 東京での報告会など
活動時期	2011年3月末～ 継続中
主な活動内容 / 対象者	主に福島、大船渡にてアロマセラピー施術 他活動で支援を続ける個人との報告会
アロマボランティアに参加したのべ人数	不明
アロマボランティアを受けたのべ人数	約 100 名
主な連携・協力先	フレグラントアースワールド、パチュリ
URL など	ブログ http://d.hatena.ne.jp/nachos3337/ FB http://www.facebook.com/naoko.k.harada

■ 活動詳細

- 2011年3月 岩手県盛岡市「いわて子育てネット」への支援物資協力
- 4月 福島県伊達市梁川高校への支援物資協力（樋渡氏に委託）
- 4月 福島県福島市に避難中の方への支援物資協力（福島市在住の友人に委託）
- 4月 岩手県陸前高田市への支援物資協力（町田鶴の羽の会に委託）
- 5月 岐阜県へ避難中の方へ虫よけアロマスプレーを自作&送付
- 6月 「東北を緩やかに長期的に応援する会」にてアロマボランティアの報告（高田馬場）
- 6月 東鳴子温泉被災者へのアロマセラピーハンドトリートメントレクチャー（読売新聞企画）
- 8月 福島県ハワイアンズに避難中の方へアロマセラピー施術
- 8月 岩手県大船渡市「第二回やっぺし祭り」にてアロマセラピー施術
- 9月 AFP 通信記者との共同で、震災ボランティアの報告食事会（新宿）
- 9月 宮城県登米市に支援物資協力（BRALOVE に委託）
- 10月 岩手県釜石市に支援物資協力
- 11月 岩手県釜石市に支援物資協力
- 11月 「つなひろ会」にてアロマセラピーボランティアの報告（世田谷）
- 2012年3月 気仙沼大島第一回椿祭りにてアロマセラピー施術

■ 活動のきっかけ：

直接の友人や知人をつてに、必要な場所への支援物資協力から始まった。

■ 活動の方針/工夫など：

直接現場に足を運び、被災状況も目にして、現地の方との触れ合いを持つ。アロマセラピー施術が主な目的ではなく、主にお祭りを主体とした“楽しみ”の一環として行うことで、双方の気持ちの交流を図る。同時に、被災地でも可能なセルフケアについてもお伝えすることで、少しでも前向きな気持ちになっていただく。

■ 活動方針の変化：

震災直後は、とにかく東京にいて出来ること！と、物資を募り送ることに力を注いできた。直後アロマ隊の共同代表として活動を始め、資金集めや現地での触れ合いが始まった。

スタートダッシュをかけて息切れになることは避けたいと思っていたものの、実際 2011 年末には慣れぬボランティア活動と度重なる報告会により息切れ気味の自分を発見。

実際現場に足を運んだ、または被災地に居住している方々との密なやりとりを通じ、2011 年暮れ～2012 年初頭にかけて“物資も施術も与えられるだけの時期は過ぎ、自立が求められている”ことを知る。

自分の息切れと現地の状況が重なり、現在はしばらくボランティア活動を休止しているところ。

今後は、他のボランティア活動をしている方々と更に密な連絡を取り合い、現地の経済的自立のためにアロマセラピーをどう活かすかを念頭に置き、後方支援が出来ればと考えている。

■ これからの活動目標や予定など：

1. アロマセラピーやハーブなどの自然療法が、当たり前のもので人々の生活に浸透するよう情報発信をしていく
2. 災害時など極限の状態に置かれた際にも、自然の恵みに触れることで肉体的精神的平安を保つことが出来るということを伝えていく
3. 精力的に復興活動を行う他業種の方たちとの交流を続け、直接ボランティア活動に参加できない首都圏在住の方たちに向けての情報発信ならびにヒアリングの場を共有する
4. 2012 年 5 月現在は、気仙沼大島の椿油と飛騨高山の yuica を広めることで、日本古来の植物のパワーと親和性を肌で感じていただけるようサロンワークをしたいと考えている



■ 写真



●宮城・東鳴子温泉でアロマ講習会と施術

(2011年6月)

南三陸と女川からの避難してきた皆様に旅館の広間を借りて講習会。

最初は表情が硬かったが、お肌に触れてお話を何ううちにどんどん軟化してきたのがわかった。

良い香りとお肌の触れ合いは、人の心を少しずつほぐすことを再認識した。



●岩手・大船渡「第二回やっぺし祭り」で

アロマ施術とスプレーづくり (2011年8月)

大船渡市の盛川河川敷にて行われたやっぺし祭りの中でアロマブースを作って施術。沿岸部ではないため被害の少ない地域だが、働く場所を失った人たち、身内を失った人たちの心に潜む悲しみは大きい。

お祭りのため、子どもが大勢参加してくれたのが嬉しく、小学生と幼稚園の子にもフットケアが出来たことが喜び。



●東京・新宿報告会 (2011年9月)

AFP通信の伊藤記者と二人で、ボランティア活動並びに現地報告の食事会を持った。

ターゲットは、ボランティア活動に興味がる人たち、または興味はあるものの足を運ぶことができない人たち。

伊藤記者は震災直後に現地をまわり、大槌消防団にポンプを送る活動を続けている。

(報告会の後、無事ポンプを送ることができた)



●東京・世田谷報告会 (2011年11月)

「つなひろ会」として発足したボランティアグループの発起人として、アロマボランティアについて報告。

弁護士、通信社記者、企業OL、アロマセラピストが中心となり、現在行っていること、行ってきたこと、今必要とされている情報交換の場を持った。

〇〇 元氣をおくるアロマ隊 共同代表の活動 〇〇

活動団体名	元氣をおくるアロマ隊 × 大手小町
代表者（居住地 / 職業）	樋渡 志のぶ（東京都 / アロマセラピスト） 川島 尚子（東京都 / アロマセラピスト）
主な活動場所・エリア	2011年6月11日（土） 東鳴子温泉の避難所 旅館「勘七湯」広間（宮城県大崎市）
活動時期	2011年6月11日（土）
主な活動内容 / 対象者	南三陸町と女川町から東鳴子温泉に避難されている方を対象に、アロマトリートメントレクチャーと施術を実施。
アロマボランティアに参加したのべ人数	2名
アロマボランティアを受けたのべ人数	約20名
主な連携・協力先	読売新聞社大手小町、東鳴子温泉「旅館大沼」

■ 活動のきっかけ：

読売新聞大手小町が「東北復興支援の旅」を企画。当初、ツアー参加者が被災地に行き、被災者とアロマトリートメントを体験する企画に「元氣をおくるアロマ隊」が協力要請を受けた。アロマセラピストがツアー参加者と被災者にアロマセラピーを指導する予定だったが、指導しても初対面同士ということで、被災者の心的負担を考慮し、ツアーは中止。「元氣をおくるアロマ隊」が被災者を訪ね、ハンドトリートメントをレクチャー、施術する企画に変更された。

■ 活動の方針/工夫など：

マッサージ用オイルとハンドトリートメントの施術解説書をお渡しし、今後、自身でも実践していただけるようにした。また、日頃からアロマに馴染んでいただけるよう、手づくりスプレーをプレゼントした。

■ これからの活動目標や予定など：

アロマトリートメントレクチャーの実例としてノウハウが習得できたことで、今後都内での避難者に向けた講習会開催等を検討予定。

■ 写真

① 当日配布物（施術解説書）



② 当日配布物
（マッサージオイル、スプレー）



③ 当日配布物
（エーザイから協賛のハンドクリーム）



④ レクチャーの様子

